

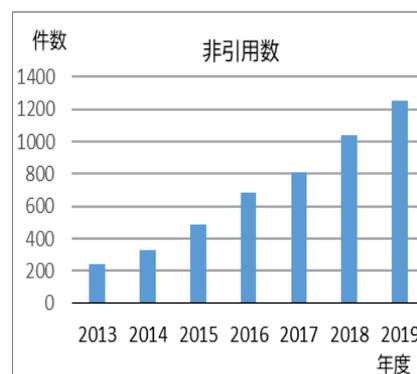
V. 特記事項

1. 学外研究者から注目される機関リポジトリ「CLOVER」(クローバー)

「CLOVER」とは、酪農学園大学機関リポジトリの愛称であり、本学教員の研究成果を収集・掲載する Web データベースのことである。「CLOVER」の特徴は、researchmap → 教員総覧 → CLOVER というフローを採用して、多くの費用を掛けずに研究成果の掲載漏れを減らしたことにある。(URL : <https://rakuno.repo.nii.ac.jp/>)

その成果として、「Web of Science」(世界的に有名な文献データベース)からの論文捕捉率が国内機関リポジトリで第3位となった。これは本学教員の英語論文が、学外研究者から頻繁に参照されることを意味している。研究成果が頻繁に参照されることにより本学教員の論文の被引用件数が増加し、大学としての評価を高める要因となる。

電子ジャーナル価格が高騰している昨今、学外の研究者にとって無料で閲覧できる論文・論稿の増加は、その分野の知見へのアクセスを容易にし、教育・研究への波及効果を生み出し、生命科学・自然科学等本学の学術分野全体の更なる発展を後押しすると考えている。



2. 酪農ジャーナル電子版「酪農 PLUS+」(ラクノウプラス)の開設

「酪農ジャーナル」は、酪農学園が昭和23(1948)年に通信教育専門の野幌高等酪農学校を設置した際に学生たちの副読本として作られた「酪農学校」が基であり、その目的・使命は現代まで継承されている。「酪農学校」は、建学の理念や酪農教育、研究成果の普及・啓蒙、酪農家への情報発信を使命とし、昭和39(1964)年には「近代酪農」として名称変更し、以来短期大学酪農学校(卒業生91,517人)の通信教育の教材として約25年間全国の学生に広く活用されてきた。平成元(1989)年には「酪農ジャーナル」へと名称変更し、酪農現場への教育・普及教材として発行を続け、同類の専門雑誌の台頭もあって、平成29(2017)年3月末に一度休刊となったが、本来の存在意義を再確認し、その目的・使命を明確にした上で、平成30(2018)年4月に酪農ジャーナル電子版「酪農 PLUS+」を開設し、新たなスタイルで大学からの情報発信をスタートさせた。

「酪農 PLUS+」は、「土から学ぶ、未来へ紡ぐ酪農学園」をコンセプトに、自己学習の推進と確立、未来への入り口となるユビキタスとして、高校生、大学生、酪農家、農業関係企業、異業種企業等幅広い層に対応し、本学の情報(知財)を提供している。

電子媒体の機能を活かし、動画を活用した技術伝承も行い、双方向型の情報交換により、そこからフィードバックされる研究成果への評価や現場の実情を本学の研究や学生教育に活かすことは「酪農 PLUS+」の大きな役割の一つである。将来的にはグローバル化に対応する多言語も目指しており、「酪農 PLUS+」を活用した新たな双方向の関係を築き、広く世界の現場への知識還元を目指している。(大学 HP : <https://rp.rakuno.ac.jp/>)

